

酒々井町

郷土研究会会報

第126号

平成19年10月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

下宿麻賀多神社の山車人形

”小野道風”

大川 昌克

人形は毎年十月祭礼時に飾り上げ、神社拝殿に展示している。山車の車体は拝殿脇の倉庫に格納されているが、割れ・破損が著しく数年に一度祭礼時に組み上げ、終了後すべて分解して格納している。

この山車人形”小野道風”は佐倉麻賀多神社の祭礼で佐倉市の肴町が引き回していた物だったが、同町が、江戸天下祭で使用されていた「竹生島龍神」の山車を日本橋から購入(明治十二年)し、さらにお神酒所を新規に建造(明治二十六年)した際に酒々井下宿麻賀多神社に委譲されたものである。(江戸祭礼研究家山瀬一男さんの調査による)

り中断され、近年神社拝殿に飾り上げ展示されてきた。

また山瀬一男さんによれば、衣装箱の裏書に「山車人形道具入 安政六年未九月 肴町」とあり、「頭」と「四肢」の木箱には「小野道風人形 法橋仲秀英 作」とはっきり鮮明に墨書きされていることから三代目仲秀英の作品であり、製作年月まではっきり分り、衣装は褪色が見られるものの糸のほつれもほとんど無く当時のままであり、全体として非常に保存状態が良くオリジナルを保ったままの姿に驚きを禁じえなかつたとのことである。

また仲秀英の曾孫に当たる齋藤道子さんも曾祖父を偲びつつ驚嘆の声を上げていた。

この山車人形”小野道風”が昨年十月二十三日から二十九日まで東京駅前丸ビルで開かれた「千代田江戸祭二〇〇六」に出展、イベント開

催中の一週間展示され、優雅な人形振りを披露した。

このイベントは江戸時代に江戸城で將軍に上覧されていた天下祭に縁のある山車人形や神輿が一般公開されているもので、その展示品の目玉として、この”小野道風人形”が選ばれた。



山車人形 小野道風

※仲秀英
三代続いた人形師で、江戸日本橋十軒店に店を構え幕末から明治にかけて活躍した名人といわれた人形師で、同時代の原舟月と並び現在でも有名である。

酒々井町今昔

川島 俊彦

十三、一里塚

県道宗吾・佐倉線(旧成田街道)の大国屋の成田寄り、旧成田信用金庫のあった所(酒々井一五八八番地地先)に一里塚がありました。一説によると、慶長九年(一六〇四)徳川秀忠が諸国の街道に五間四方の一里塚を築くことを命じたとあります。

旅の目安や休息の場所であったと言われています。

明治以後は民間に払い下げられたと言われますが、今はほんの少しその跡が見られます。

昭和四十年頃までは通る度に見ていました。

十四、下り松

酒々井小学校前から成田方面へ向って百メートルほど行くと下り坂となり「下り松」があります。

昭和十六年頃は高さ三十メートル位の大きな垂れ枝の松が数本ありました。同二十二年頃には一本だけとなり、その下をボンネット付の定期バスが砂ぼこりをたてながら走って

いました。

いづれ伐採されると思い、またその風景もよかったので撮影して、すと、当時米兵がジープを止めて、不思議そうに眺めていました。

当時は砂利道で乾燥すると砂埃はひどいものでしたが、二、三十メートルも下った左側からは印旛沼が見え、その遠方には筑波山が眺められました。

(この時の写真は、朝日グラフ「朝日新聞創刊百二十周年記念版『週間二十世紀』一九九九年三月号」に小さく載っています)



下宿 下がり松をバスが行く

十五、明治天皇

御駐驛記念碑

下り松をすぎ、宗吾への分岐点(酒々井六五三番地)に小山が見えてきます。通称「つき山」といいます。ここは酒々井町の中では一番眺望のよい所であり、山頂にはかつて、「印旛手賀沼公園」の看板がありました。県立の公園指定であったところですが、明治時代には未干拓であったと思われま

す。屋根付眺望所の他に「明治天皇御駐驛記念碑」として大きな石碑が建てられています。明治天皇が三里塚牧場(種畜場)へ行幸された際の休憩場・御野点場として選ばれた時の記念碑です。

明治十四年六月二十九日と

七月一日、その二回目が十五年六月六日と八日の計四回と刻まれています。

当時道は狭い砂利道で、町のほかに東京成田間は三十箇所くらいのご休憩所があったようですが、天皇陛下が停まられたという事は当時としてはこの上ない光栄であったと記されています。

甲府方面の

見学に参加して

大野 廣

五月八日予定どうり公民館を出発して佐倉インターより東関道に乗り一路甲府を目指した。恒例により岡田会長より挨拶があり和やかな一泊二日のバスの旅(見学)の始まりである。

中央道の勝沼インターで一般道へ下り、武田信玄が菩提寺として定めた臨濟宗妙心寺派の古刹である乾徳山恵林寺を見学した。本堂の裏側の庭園は回遊式庭園で上段に枯山水、下段に心字池を配した素晴らしい名園で昭和十七年に国の名勝に指定された。

恵林寺境内にある宝物館には今から四百五十年遡る数々の遺品があり案内人の説明に熱心に耳を傾けた。三門(県文化財)と四脚門(国重要文化財)を通り、ドライブイン信玄館で昼食をとった。

次いで甲府城跡舞鶴城公園から遠く雪を頂く富士山を眺望し、県民情報プラザで開催されている「風林火山博覧会」を見学した。途中にある「信玄公の墓」(現在は

この墓が信玄公の墓として地域住民により護られている)を見学してから「武田神社」へと向った。武田神社はその境内と共に昭和十三年に国指定史跡に指定されている。

甲府盆地の高台にあり、北側は常緑樹に包まれ南に遠く富士と甲斐の連山が眺められる景勝の地で、周囲には当時のままの堀と土塁が残されている。南側は多くの温泉が発掘され、住宅街になっている。

次いで明日見学する甲斐善光寺を左に見ながら石和温泉へと向った。今夜の宿は笛吹川に近い石和常盤ホテルである。食事の後いつものカラオケ大会を酒を交わしながら聞いているうちにお開きとなった。

朝一番に「本坊酒造マルスワイン」を見学しワインを試飲して、次の見学地甲斐善光寺へ向った。信濃善光寺と違って商店も少なく

ひっそりとしている。

最後の見学地、昇仙峡は影絵美術館まで行き荒川の景勝地である大自然を散策しながら下のバス停まで下った。昇仙峡一番奥のドライブインレストランで昼食をとった。日程の消化が順調なため、あと一

箇所見学することになり、甲府市を流れる釜無川の氾濫を防ぐため、信玄公が一七年の歳月をかけて築いた「信玄堤」を見学した。最後にいつも県外見学会を企画されている役員の皆様の苦勞に感謝いたします。



恵林寺 四脚門(国文)

会計報告

| | |
|----------------|--------------------|
| 《甲府方面》 | |
| (平成19年5月8日~9日) | |
| 参加者 31名 | |
| 収入 | 671,000円 |
| 参加費 | 21,000円×31=651,000 |
| その他 | 20,000円 |
| 支出 | 672,513円 |
| 宿泊代 | 319,178円 |
| 昼食代 | 71,610円 |
| 拝観料 | 37,800円 |
| ミヨシ観光 | 220,200円 |
| 諸雑費 | 23,725円 |
| 差引 | △1,513円 |

(研修会計より補填)

王子方面

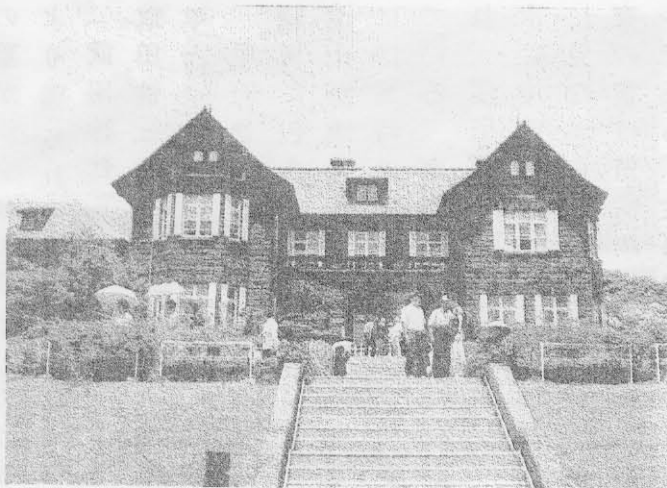
歩いてふれよう

綿貫 慶子

紫陽花と花菖蒲とむらさき露草と入梅を待ちながら雨に映える花々の咲き競う六月八日、四十数名の会員の方達と王子方面に出かけました。紙の博物館に行く予定が館側の都合により休館の為に近くの王子稲荷神社に参拝しました。千年の昔から衣食住の祖神で商売繁盛の守護神として狐が祭られ、そこここに狐の石像が見られました。幾重にも連なる赤い鳥居をくぐり、石段を上ると往時の狐の棲家なのか洞穴がありました。飛鳥山の桜の花見をかねて当時は行楽客で賑わったようです。

飛鳥山公園はすっかり葉桜になり、緑の木陰をかもし出していました。広い園内は、八代將軍吉宗公が数千本の桜を植えて江戸庶民の憩いの場所とし、遊山の少ないその時代の人々に涼風をとどけたようです。ひとたび交通量の多い街道を歩くこと二十分、旧古河邸に着きました。そこは、大正六年に古河市兵衛が造園したもので、イギリス人の建築家

によるルネッサンス風の洋館と、今が盛りのバラが見事に溶けこみ、美しい景観でした。正に大正の息吹が感じられ、夜空を彩る淡い月をイメージした薄紫のバラには「ムーンライト」と名が付けられ印象深いものでした。平成十八年には国の名勝に指定されました。大きな榆の木の下で三々五々休憩をとり、一時過ぎ散会予定地の駒込駅に向いました。郷土研究会の行事に初めて参加しましたが、会員の方達と和気あいいのも楽しい時を過ごしました。



旧古河庭園

郷土史講座は

今年も大盛況

今年の郷土史講座は、八月二十六日、講師は町企画政策課の木内達彦氏で「本佐倉城跡と酒々井宿」をテーマとしてご講演いただきました。今年も会場満杯の盛況でした。

講演内容のあらまし

☆ 本佐倉城跡について

一、城跡には、空堀、土塁、矢倉に守られた城跡が明瞭に残っている、これは全国でもめずらしい
二、本佐倉城は、築城期から約二十年後の拡張一期、その後の拡張二期、拡張三期を経て、確実に戦国時代後期の典型的な中世の城を形造っている

三、発掘確認調査から見た虎口・木

戸跡・御殿跡・会所跡・茶屋跡そして庭と南北にある矢倉跡の遺構についての説明

☆ 酒々井宿について

天正十九年(一五九一)、佐倉六町の一つに取り立てられ、「未久しく栄えるように城下整備を行うよう」という「家康・秀忠公の意を受けた証文状が、酒々井の年寄り篠田大隅等に下されたとのこと

長福寺閑話

小坂 昭雄

四、あんころもち

毎年十一月九日は、阿弥陀様のお祭りです。当日は早朝より檀家が参集して境内の清掃を行い、持参した花を供花致します。そして総代が「秘仏」である本尊様をご開帳します。午前十一時から住職による法要が執り行われ、読経により檀家の家内安全を祈禱され、お札が配布されます。このお祭りの最大のイベントは、「あんころもち」(餡餅)です。境内で臼と杵で餅を搗き、あんこ(餡)をまぶして出来上がりです。早速本尊様にお供えし、参会者全員に振舞われます。午後三時を過ぎると学校が終わった子供達も餅を目当てに集まります。

私が酒々井小学校に入学したのは昭和九年です。当時、駐在・駅長と言えは町の名士ですが、私はその息子さんと同級生でした。当時、駐在所の巡査は内務省の役人であり、駅長は鉄道省の官吏だったので。その息子と他の悪童二、三人と学校が

終わると大急ぎでお寺に来ます。「俺は偉い人の子供と同級生なのだ。」と有頂天になっていたことを今でも覚えています。檀家の子供も、同級生達も「俺は餅を三個食べた」「俺は五個だぞ」と自慢しあい、釣瓶落としで暗くなるまで、境内で遊びました。名士の子供達も親の転勤に伴い、三、四年生位で何処かに転校してしまいました。

何故十一月九日が「お祭り」なのか分りません。檀家の皆さんは幼年からその日は「お阿弥陀様」なのだと言う事が身に付いてしまい、太陽が東から出て西に没するのと同様に考えております。

「あんころもち」の由来は？。昔は餡餅は最高の御馳走だったのでしよう。檀家は皆百姓だった故、秋の収穫を終え豊作のお礼として仏様にお供えしたのでしよう。

しかしこの行事も昭和の飽食と少子化の時代となり、高度成長期を迎へ昭和五十年代から中止となりました。菓子屋さんから大福を求めて仏前に供えてきましたが、近時又この

「あんころもち」を復活させようと言う気運が檀家内にあるようです。私ごとで恐縮ですが、孫が一人おります。女の子です。その生年月日が丁度お祭りの十一月九日なので、私は「お阿弥陀様」の申し子と信じ、毎月一日・十五日にお参りして、清らかな成長を感謝し今後の安泰を祈願しております。

お祭りには、一年振りに「本尊様」のお姿を拝見し、孫娘の幸多からんことをお願い致します。

「親馬鹿」ならぬ「祖父馬鹿」で本項を終わります。



長福寺本堂

岩橋分校の思い出

河合 昭三

今から七〇年程前のことですが、当時の分校は、藁葺き屋根の平屋建て、教室は板張りで、一年、二年の区切りはなく、その他に畳の部屋が二つありました。先生は、一人で一、二年生を教えていました。児童は二十人から三十人位いたと思います。水は、つき井戸があり、その井戸水を使っていました。

正月には、校庭で子供達が凧揚げをしたり、独楽、めんち、竹馬などをして遊びました。当時、凧が五銭、凧糸も五銭だったと思います。

また、消防団の出初式の後には校庭で焚き火をして、みんなで酒盛りをしていました。それから、大人から子供まで楽しみにしていた活弁による無声映画(時代劇が中心)の上映もありました。

戦前戦中は、出征していく兵隊さんの壮行会が国防婦人会、友人、子供たちにより分校で行われたり、兵隊さんが三十人くらい寝泊りして、竹槍を作ったり、防空壕を掘ったり、木を伐って製材し小屋を建てたりし

ていました。

戦後は、民主化を進める映画や時代劇がよく上映されました。十月十五日の祭りの日には、校庭に櫓を組んで大崎青年団による素人演芸大会が行われ、大漁節、八木節、国定忠治の唄に合わせた踊りや東海林太郎の曲などを歌ったりして、みんなで楽しい時間を過ごしたものでした。

この様に、今思い出すと岩橋分校は、子供たちの教育の場としてだけでなく、地域の重要な行事の場として、また、みんなの楽しみの場としてそこに住む人々と深く関わってきた

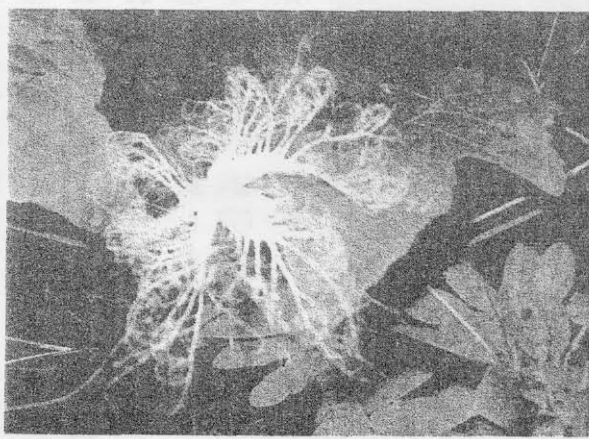


岩橋分教場校舎

た建物でした。

今は、その分校はありませんが、大切な思い出として今も心に懐かしく残っています。

《観察メモ》



カラスウリ (ウリ科)

七月中旬を過ぎた日以後、細いリース系に囲まれたような白花が開きます。花冠は五個に裂け夜間活動する蛾を媒介に、秋には赤い実に成り、熟した実の中には「打出の小槌」が入っています。

(野草部)

見学

案内

日帰り見学会



野田方面

十一月二十八日(水) 雨天決行

紅葉の頃、千葉の北西部にあり、古くから水と緑に恵まれた野田市に行きます。平成十五年に関宿町と合併しました。北部は、江戸時代、江戸の玄関口として、利根川と江戸川との合流に関所が設けられました。南部は、江戸っ子の食文化を支えた醤油醸造業を中心に発展しました。

今回は南部にある、醤油醸造業のキッコーマン工場を訪ね、醤油造りの工程を見学し、ここで昼食をとります。その後近くにある茂木本家美術館へ、第十二代当主茂木七左衛門氏が蒐集された美術品などを観て、日の暮れるのが早いので帰路に着きます。

名勝探訪

房総風土記の丘方面

十二月十一日(火) 雨天代替十二月十二日(水)

坂田ヶ池は、湧水があるためいつも枯渇することがなく、成田市により池畔が整備され散策コースとして人気があります。旧学習院初等科正堂は洋風建築の寄棟造りで東京四谷に明治三十二年に新築されたものをここに移設してあります。

竜角寺古墳群は六世紀から七世紀にかけて築造された一三基の古墳で、第一〇一号墳は唯一復元され、二重の周濠をもつ円墳で裾の部分に盾を持つ武人や、動物形など約二六〇体の埴輪がめぐっています。



龍角寺薬師如来像

<郷土研日誌>

Table with 3 columns: 月日 (Date), 内容 (Content), 参加者 (Participants). It lists various events from June to September, including general meetings, lectures, and field trips.

あとがき

突然の首班交替で政局もめまぐるしく動く今日この頃です。今年の夏は酷暑の連続でした。この暑さのさ中に带状疱疹に罹った私は、やはり極度の暑さに対応できなかったのでしょうか。八月十六日の四〇・九度は忘れられません。

秋には、郷土研も「ふるさとガイド養成講座」の講師とか、「歩き、み、ふれる歴史の道『酒々井』」で本佐倉城跡・他についてガイドをすることなど、多忙になりそうですが、それだけ勉強にもなります。今期も、いろいろ楽しい行事を計画しました。皆様のご参加お待ちしております。

郷土研行事案内

平成19年10月～12月

| | 10 月 | 11 月 | 12 月 |
|------------|--|------|---|
| 史談会 | 休 講 | 休 講 | 1日(土) 13:30 中央公民館会議室 「和田のむかし」⑩ 講師：高橋健一先生 |
| 研究会 | 10月6日(土) 13:30 中央公民館会議室 テーマ 「千葉氏の研究」(第6回) 講師 浜口 信義氏 (注) この研究会は、今回をもって終了します。 | | |
| 日帰り 見学会 | <p>「野田方面」</p> <p>11月28日(水) 町バス利用 雨天決行 定員 33名 参加費 1,500円(食事代・入場料を含む)</p> <p>集合時刻・場所 8:50 中央公民館前広場 コース 中央公民館—キッコーマン醤油工場見学 <昼食(工場内)> —野田市・茂木美術館—中央公民館 16:30頃 帰着予定 (場合によりコースに変更あり) キャンセル 実施3日前まで、寺本 へご連絡下さい。</p> <p>《申込受け付け》 10月5日(金) 9:00～10:00 中央公民館ロビー</p> <p>《注》町バスの利用が不可となった場合、本件“日帰り見学会”は中止いたします。 中止と決定した場合は、参加申込者にその旨を直接連絡(電話等)いたします。</p> | | |
| 名勝探訪 | <p>「房総風土記の丘方面」</p> <p>12月11日(火) 雨天代替日 12月12日(水) (当日の間合せ 7:00～7:30 岡田まで)</p> <p>参加費 100円(資料代) その他 弁当・飲み物・敷物等は、各自ご持参下さい。 (現地での弁当調達は、難しいと思われるのでご注意ください。)</p> <p>集合時刻・場所 8:30 JR酒々井駅改札口前(階段上) コース JR酒々井駅—成田駅—下総松崎駅…坂田ヶ池…風土記の丘[第101号古墳…<昼食>…旧学習院初等科正堂(国指定文化財)…古民家…龍角寺古墳群]…バス停車場—バス—安食駅—成田駅—JR酒々井駅 16:00頃 解散予定 (場合によりコースに変更あり)</p> | | |